



経済性の追求や高層化により均質化が進む現在の都市。
生活の共有空間であった「余白」は失われつつある。
「余白」を都市に「寄生」させることで生活風景を表出、
個性溢れる都市とする、他都市でも活用可能な、20の
「寄生プロトタイプ」を提案する。

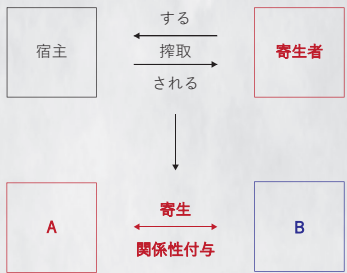
都市寄生

—都市個性再付与を目的とした寄生プロトタイプの提案—



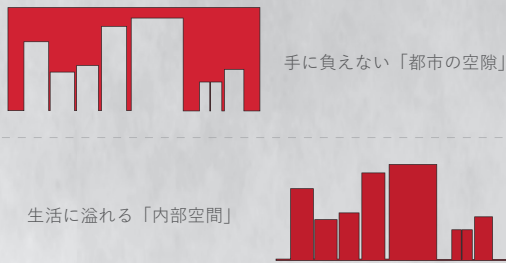
01 寄生

自然界における寄生は、宿主に対する寄生者の一方的な搾取といえ、搾取する/されるの関係性である。本計画において、「寄生」を「二者において関係性を生み出すもの」と再解釈し、建築に応用する。



02 都市個性の損失

現在の都市は、高層化や過密である状況により、余白は失われ、残存する余白も都市スケール化、人々の手に負えない現状である。結果、都市は無個性化されつつある。一方、**建築内部では人々の営みが溢れ、豊かな生活風景が広がっている。**



03 余白＝地域個性

都市における余白は、地域住民の生活の場であり、それらは**人々の手によって育まれるもの即ち「可変の余地」を保有している**ことで地域個性として存在している。**人々の生活、その風景は都市個性の一つである**と考え、その表



04 余白の定義

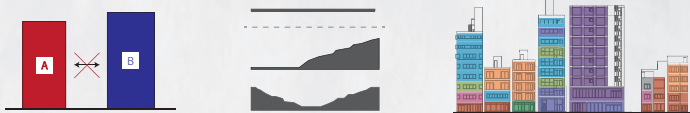
「余白」を建物の隙間や空きテナント、駐車場といった「**都市の空隙**」または「**可変の余地**」を持つ空間と定義する。「都市の空隙」は各地域によって異なり、その場所固有の余白として存在している。



05 プロトタイプとしての選定

対象敷地は、**寄生の可能性を示せる場所を選定**。選定条件として、①**建物が単体かつ内部で完結**（建物と街のつながりが弱い）、②**地形的特徴を持たない**（フラットな地形で可能性を提示）、③**様々なスケール・用途の建物が混在**（より寄生種類を示す）の3つの条件から敷地を選定。

- ① 建物が単体かつ内部で完結
- ② 地形的特徴を持たない
- ③ 様々なスケール・用途の建物が混在



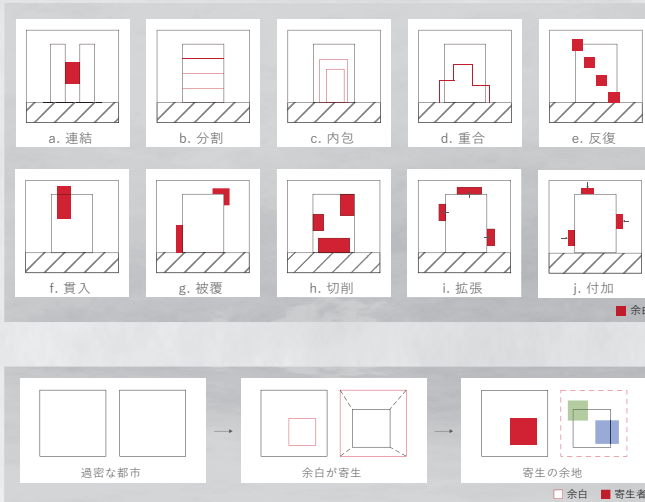
06 対象敷地（錦糸町）

対象敷地は「**プロトタイプ**」として、東京都墨田区錦糸町を選定。対象敷地には、オフィスや飲食店、住戸、美容室、ジム、ホテルなどが存在し、**様々な用途に溢れている場所**である。また、建物同士の高低差に幅があり、最大で30mの差が存在。**隙間や高低差による空隙の種類が豊富かつ用途も多岐にわたる。**



08 余白の寄生方法

寄生の種類をもとに、余白の寄生方法を言語化、組み合わせることで、**余白の寄生方法を創出**。余白の寄生が更なる寄生の余地となるよう、空間構成を行う。「**余白が寄生**」することで、「**他の寄生者による新たな寄生**」や、「**人々の生活・感情**」が余白に寄生するなど、**新たな余地・寄生が生まれる**。



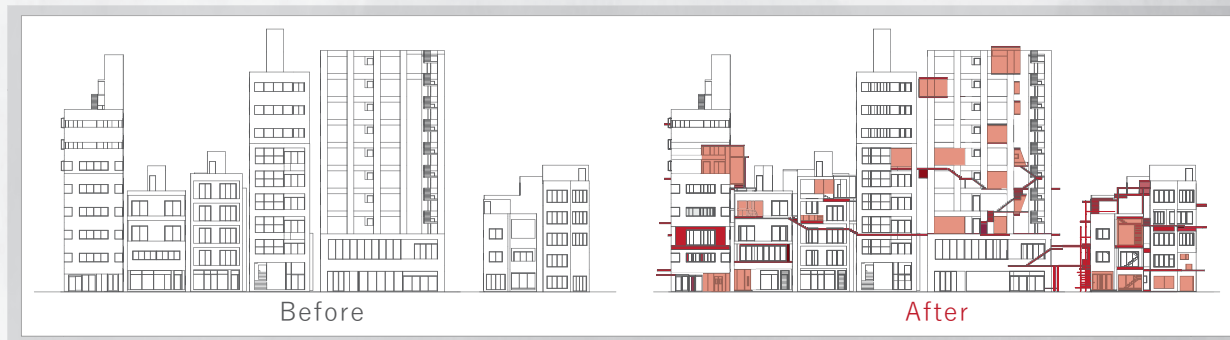
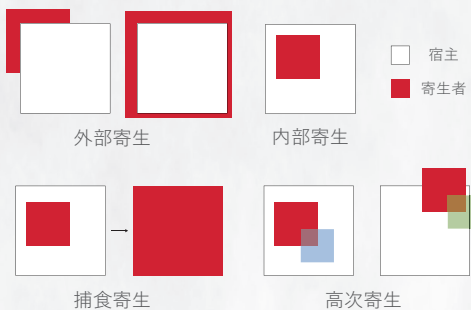
09 寄生モデルの作成

錦糸町における余白の扱われ方・寄生の要素を分析し、抽出を行う。ファサードや空間、建築的要素などの錦糸町における「**寄生モデル**」を作成する。抽出した寄生モデルを「余白が寄生」に対して寄生させ、更なる寄生となるよう空間構成を行う。



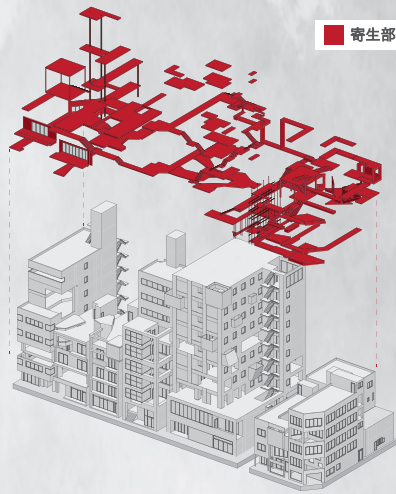
07 寄生種類

寄生の種類である、「**外部寄生**」（宿主の外部に寄生）、「**内部寄生**」（宿主の内部に寄生）、「**捕食寄生**」（宿主を捕食する寄生）、「**高次寄生**」（寄生者が寄生者に寄生）をそれぞれ図式化し、設計手法として用いる。



10 敷地境界線を超える

寄生という小さな操作が重なり、反復し合うことで**余白が都市全体に寄生**。都市寄生へと変化。豊かな風景を表出し、失われたコミュニティスペースを取り戻し、**多様な関係性を創り上げる**。寄生した余白に、「人々の感情・生活」が寄生し敷地境界線を超えた**新たな繋がり**が生まれ、部屋・建物・街区・地域・都市を超えて広がっていく。パラバラであった建物が一つの建物に統合される。



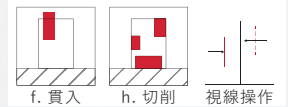
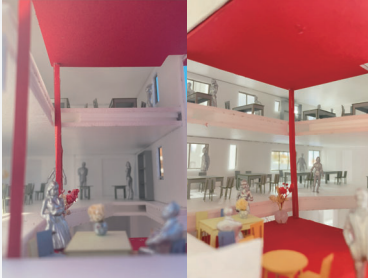
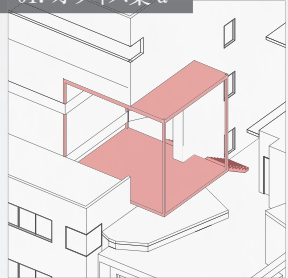
■ 寄生部分

寄生により都市構造を改変させる。建物や上下階との接続が行われることで、GLを歩くように建物を縦横無尽に歩くことが出来る。「**真に都市を歩くこと**」が可能に。生活が都市に溢れます。また、これにより従来のテナントの方式を変えうる可能性が生じる。「**寄生**」は様々な可能性を秘めているのだ。



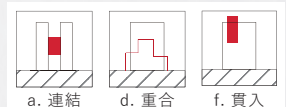
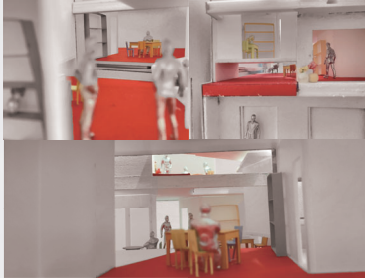
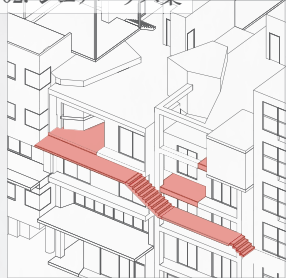
12 寄生タイプ

01. オフィス案 a



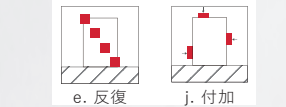
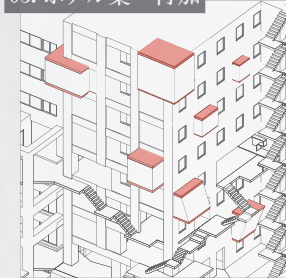
オフィスに「被覆」「切削」が寄生。オフィスを断面的に繋げつつ、場を創出。**外部環境を緩やかに取り入れながら、上下階を結ぶ。**

02. シェアハウス案



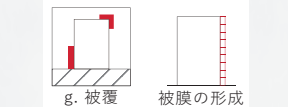
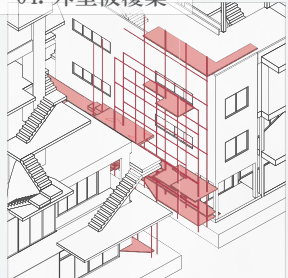
住戸部分に「連結」「重合」「貫入」が寄生。隣接する集合住宅をシェアハウス化。余白部分が**ツギツギ的共有空間**となり、重ね合わせにより、断面的につながる。既存残余空間は個室等に変化。

03. ホテル案一付加



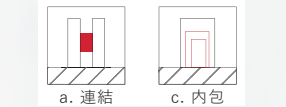
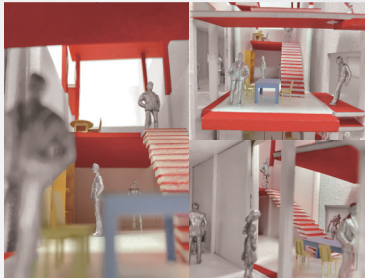
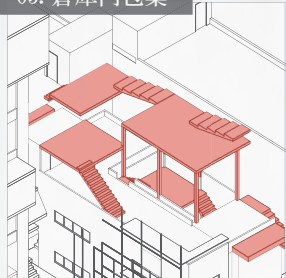
「建物に泊まる」を「**街に泊まる**」ホテルに変換、宿泊客と街との繋がりを強める。また、寄生者が机や椅子のように扱われるなど、**多様なタイプを生み出す**。

04. 外壁被覆案



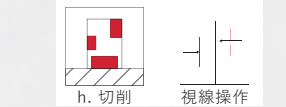
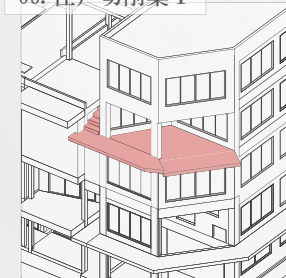
外壁面に「被覆」が寄生。**場を生み出しつつ、棚や椅子、机として利用可能**。内部に侵入しながら、新たな寄生者が巻き付くように寄生する。

05. 倉庫内包案



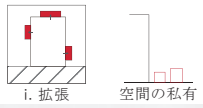
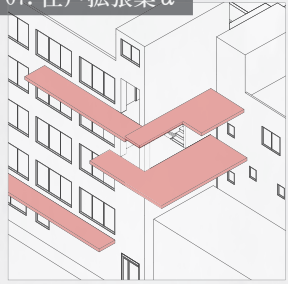
倉庫内に「内包」が寄生。隣接するジム・住戸の共有空間となる。「連結」により周囲の建物と接続、ホテル大浴場やジムなどが一般開放、**ソフト面の変化による新たな関係性**が生まれる。

06. 住戸切削案 I



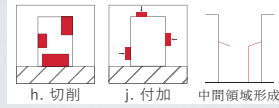
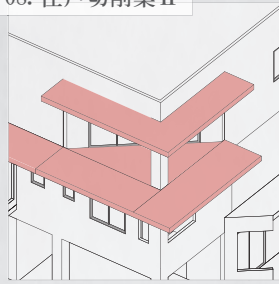
住戸に「切削」が寄生。視線操作により住人に選択肢を与え、**都市と住戸を緩やかに接続・切斷可能に**。寄生部分が中間領域として作用する。

07. 住戸拡張案 α



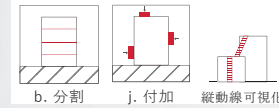
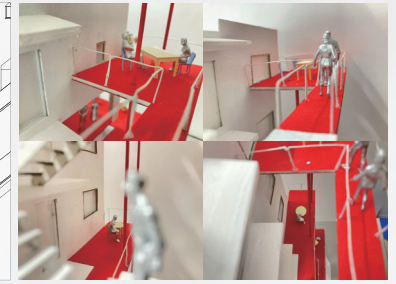
住戸に「拡張」が寄生。空間の私有化により、拡張された空間が生活に幅を与える。**外部に対する表現の場としても機能**するため、アーティストが建物に集まり、いっしょに個人ギャラリーとして機能する。

08. 住戸切削案 II



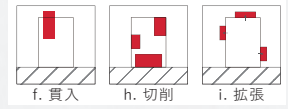
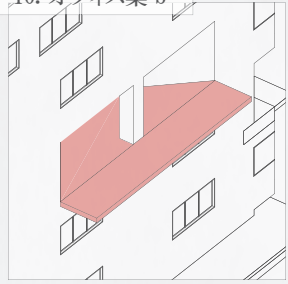
住戸に「切削」「付加」が寄生。更に庇が寄生することで、**都市との間に中間領域を形成**する。外部化された部屋に生活が滲み出る。

09. 余白分割案



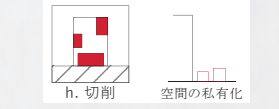
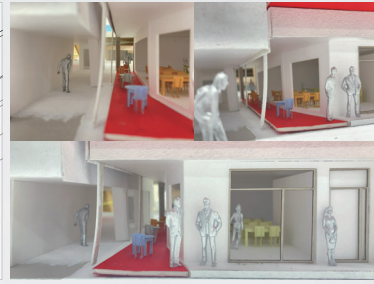
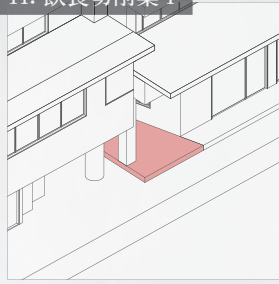
外部階段に「分割」「付加」が寄生。**都市スケール化された余白をヒューマンスケールに分割**するとともに、デッドスペースとなっている**外部階段を有効活用**する。踊り場の延長として、生活の場を生み出す。

10. オフィス案 b



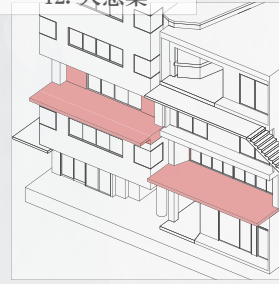
オフィスに「貫入」「切削」「拡張」が寄生。**内部を横断しながら外部を引き込む**。半屋内化されたオフィスには自然環境が入り込む。

11. 飲食切削案 1



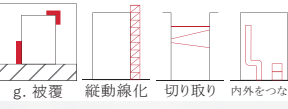
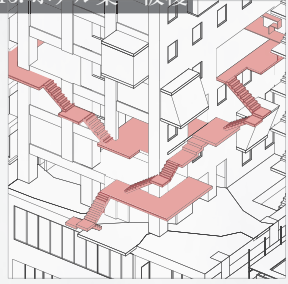
飲食店に「切削」が寄生。寄生部分に機能が滲むことで、**内外の選択が可能**に。結果、**路地的に機能、賑わいを表出**させる。

12. 入窓案



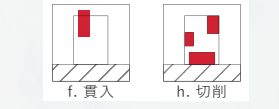
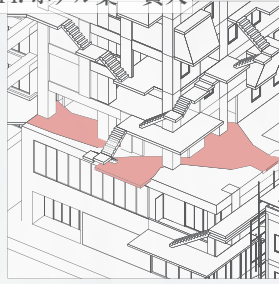
クリニック・オフィスに「切削」が寄生。**出窓に対する「入窓」**として機能。**外部環境を引き込みつつ、中間領域を形成**。生活が滲み、内外を緩やかに接続する。

13. ホテル案－被覆



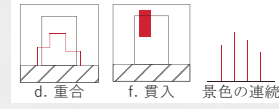
ホテルに「被覆」が寄生。**縦動線を可視化**しつつ、**都市スケール化した余白を切り取る**。また、被覆した余白が内部に侵入することで内外を緩やかにつなぎ、**浸食された内部に新たな用途が入り込む**。

14. ホテル案－貫入



ホテルに「貫入」「切削」が寄生。**内部に偶発的余白が生じ**、機能を失った客室は**コモンズやギャラリー**となり、ホテルに**新たな用途が付加**される。

15. 飲食重合案



隣接する3つの飲食店に「重合」「貫入」が寄生。道路面において余白が貫入、重合することで**内部の景色を連続的に外部に表出**。賑わいを都市に付与する。